糸島市野北「幣（にぎ）の浜」の伝説、命名の由来

福岡県糸島市周辺において「神功皇后（じんぐうこうごう）」と「弓の浜」や弓状の浜にまつわる伝説は、**三韓征伐へ向かう、あるいは帰着した神功皇后の足跡や、その地形の美しさに由来する複数の伝承**と結びついています。
主に以下の 2 つの海岸や地域に関連するエピソードが有名です。

神功皇后は、日本の第 14 代天皇・仲哀天皇の皇后。 『日本書紀』での名は気長足姫尊。夫の仲哀天皇の崩御以降、息子とされる応神天皇即位まで、初の摂政として、三韓征伐、百済との修好など約 70 年間統治したとされる。 『古事記』では長期の統治はなく、息子が気比神宮から帰った祝宴を最後とし、応神天皇の時代に移っている。 生まれ　西暦 169 年 死去　西暦 269 年，京都府 京都市 子供　応神天皇 配偶者　仲哀天皇 両親　息長宿禰王、 葛城高額媛

1. 幣の浜（にぎのはま）
糸島市にある芥屋の大門から野北浜まで約 6km にわたって続く、**見事な弓張り（ゆみはり）型の白砂青松の海岸**です。

- **神功皇后**との繋がり： 皇后が三韓征伐の際、あるいは筑紫の地を巡幸した折にこの美しい浜の近くを通り、神々への祈りを捧げた（幣を振った、あるいは戦勝を祈願した）とする伝承と結びついて語られます。この弓のように大きく美しいカーブを描く地形そのものが、古くから神聖な地として意識されてきました。

福岡県糸島市にある「幣の浜（にぎのはま）」は、神功皇后（じんぐうこうごう）の三韓遠征からの帰国・上陸伝承が残る歴史深い海岸です。
「日本の白砂青松 100 選」にも選ばれている約 6km の美しい弓なりの海岸線には、**神功皇后**の足跡に由来する以下のような深い歴史と伝説が息づいています。

幣とは
漢字「幣（へい）」は、もともと「神様にささげる布や供え物」を表し、そこから「贈り物」や「お金・通貨」という意味へと広がった言葉です。

主な意味

・神への供え物・お祓いの道具

・神道（しんとう）で神様にささげる布帛（ふはく：絹や麻などの布）や、御幣（ごへい：竹や木の串に紙垂〈しで〉をつけたもの）を指します。

・「幣帛（へいはく）」や「大麻（おおぬさ）」などの言葉に使われます。

・贈り物・引き出物

・目上の人や神仏にささげる、礼を尽くした品物や進物を意味します。

・お金・通貨・銭

・古代中国で、絹や布が交易のときの「交換の道具（お金の代わり）」として使われていたことに由来します。

・現在では「貨幣（かへい）」や「紙幣（しへい）」のように、お金や金銭を表す漢字として広く使われています。

「 幣の浜」にまつわる神功皇后の伝承

・「幣（ぬさ）」の由来と六所神社

神功皇后が三韓遠征から帰国した際、小金丸の海岸（現在の幣の浜）に上陸しました。その際、神々への感謝として「幣帛（へいはく・みたて＝神への捧げ物）」を捧げたことから、「幣の浜」や「幣の松原」と呼ばれるようになったと伝えられています。この上陸の地に創建されたのが、旧志摩郡の鎮守である六所神社（糸島市志摩馬場）です。

・火山（ひやま）の狼煙（のろし）伝説

幣の浜を一望できるスポットとして人気の「火山（標高 244m）」の山頂付近は、神功皇后が山上で火を焚いた（あるいは外敵侵入を知らせる狼煙を上げた）という伝説が残っています。

幣の浜　命名の由来

福岡県糸島市にある「幣の浜」および「幣の松原」の名前の由来は、**神功皇后**に直接ちなんだものではなく、江戸時代に訪れた儒学者・**貝原益軒**（かいばらえきけん）の言葉に由来すると伝えられています。

名前の由来と伝承

・**貝原益軒**の賛美による命名：江戸時代、この海岸を訪れて散策した本草学者・儒学者の**貝原益軒**が、見事な松林の様子をみて「神に拝したように見事な松」と絶賛したことから、「幣（にぎ・ぬさ、神に捧げるもの）の松原」および「幣の浜」と呼ばれるようになったとされています。

貝原益軒

· 生誕・出身：寛永 7 年（1630 年）に福岡藩士・貝原寛斎の五男として福岡城内で生まれる。

· 福岡藩への仕官：若くして福岡藩（黒田家）に仕え、儒学や医学、本草学を幅広く学ぶ。シーボルトからは「日本のアリストテレス」と称賛された。

· 愛妻家：22 歳年下の妻・東軒（とうけん）と仲睦まじく暮らし、当時としては珍しく夫婦で旅行を楽しむなど愛妻家としても知られる。

· 生涯：84 歳（数え年、満 83 歳）で亡くなるまで、生涯にわたり多くの執筆活動を続けた。

主な著書と業績

· 『養生訓（ようじょうくん)』

　　· 晩年に執筆した、心と体の健康や長寿の心得を説いた健康指南書。現代でも読み継がれる江戸時代のベストセラー。

· 『大和本草（やまとほんぞう)』

　　· 日本の植物、動物、鉱物など 1,362 種を分類し、効用などを記した日本初の本格的な本草学書。

· 『和俗童子訓（わぞくどうじくん)』

　　· 子どもの教育方針やしつけを説いた、日本の体系的な教育書の一つ。のちの『女大学』のもとになったとも言われる。

· 『筑前国続風土記（ちくぜんのくにぞくふどき)』

　　· 出身地である筑前国の地誌をまとめた歴史・地理資料。

· **神功皇后**との関わりの伝承：名前の直接の由来は**貝原益軒**の賛美ですが、周辺の地域には**神功皇后**の三韓遠征や帰国に関する多くの神話・伝承が残されています。たとえば、近くの「**六所神社**（糸島市志摩馬場)」は、**神功皇后**が三韓遠征の帰途に小金丸の**幣の浜**へ上陸した際に創建されたという伝承が伝えられています。

· スポット詳細情報：幣の浜は玄界灘に面し、西の芥屋の大門から東の野北海岸まで約 6km 続く弓状の砂浜と松原が特徴です。詳細やアクセス情報はニッポン旅マガジンをご覧ください。










2020. 8.15



周辺の神功皇后ゆかりの歴史スポット

糸島エリアには、幣の浜以外にも神功皇后の伝説を今に伝える重要な神社が点在しています。

スポット名　　伝承・由緒

鎮懐石八幡宮

遠征中、臨月を迎えていた神功皇后がお腹に当てて出産を遅らせたという「鎮懐石（ちんかいせき）」をお祀りしている神社です。安産信仰の聖地として知られています。

神在神社

仲哀天皇（神功皇后の夫）の御魂を宿したとされる物語など、神功皇后の歴史に深く絡む神秘的な巨大な「神石」があります。